

## はしかワクチンの接種を

乳幼児の保護者の皆さん、「はしか」がどんな病気かご存知でしょうか。

「はしか」は、昔から命にかかわる子どもにとって怖い病気で医学の発達した現在でも変わりません。「はしか」にかかると発熱が1週間ほど続きます。初めは、熱、せき、鼻水、目やになど普通のかぜとは区別できませんが、2、3日して一旦解熱傾向があつてから高熱とともに発疹が出て、熱は更に4、5日続きます。せきも強く、食欲が落ち脱水症状を伴うこともあります。感染力も強く保育所や幼稚園で流行は広がります。合併症として肺炎は30人に1人、脳炎・脳症は1000人に1人程度もあつて命にかかわることがあります。

一昨年の暮れには、堺市で流行が始まった「はしか」が大阪府内に広がり、全国の患者の18.1%を占める大流行となりました。しかも、「はしか」の流行がアメリカにも堺から飛び火して国際問題にまで発展しました。患者さんの内1歳児が27.5%と多く、次いで0歳児16.9%、2歳児と続き、3歳以下で65%を占めました。成人にも多発しました。脳炎・脳症、肺炎等の合併症で亡くなった子もいます。先進国のうち年間1万人以上の「はしか」患者が出るのは日本だけです。

「はしか」はワクチンを受けていれば、ほとんどかからずにすみます。ワクチンの副反応として38度くらいの発熱等が2割程度の子どもにありますが、「はしか」にかかるとに比べればはるかに軽いものです。流行を阻止するためには、1歳半までに95%の接種率にする必要があります。

1歳から無料で受けることができますので、1歳のお誕生日がきたら他の予防接種に優先して「はしか」ワクチンを予防接種実施医療機関で受けてください。1歳をすぎてもまだ接種されていないお子さんは至急受けてください。堺から「はしか」を根絶しましょう。

平成13年9月  
片桐 真二